
余命宣告

N澤巧T郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

余命宣告

【Zコード】

Z2713A

【作者名】

澤巧一郎

【あらすじ】

僕はいきなり余命を宣告された。

「キミの寿命はあと5分だ」

突然目の前の白衣を着たおじさんがボクに対して冷静に言い放った。

「……そっか……」

ボクはベッドの上で天井を見ながら呟いた。

普通なら涙の一つでも流すんだろうけど、ボクはそれほど死ぬのが嫌じやないんだ。

お母さん、そんなに泣かないでよ。

ボクは後悔したことなんてないんだから。

ただの一度だつて自分の行動を悔やんだことがないんだから。

お父さん、そんなにボクを哀れみの目で見るのはやめてよ。

ボクは誇りなんだよ。

ボクがこれまで生きてきた人生を誇りに思ってるんだよ。

世界中の人胸を張つて言えるよ。

もう一度生まれ変わることが出来るんなら、ボクはボクになりたいって。

お父さん。

口をなんだか動かしてるけど。

なんて言つてるかよくわかないよ。

もつと大きな声で話してくれないと。

それに、さっきから手を握ってくれてのお母さん。

ボクにはアナタの暖かさがわかりません。

力強く握り返したいけど手がどこにあるのかわからないんだ。

おかしいな。

さつきまでそこにあつたはずなのにな。

忘れるはずないと思つてたのにな

忘れちゃつた。

あれ？

目がぼやけるな。

視力が落ちたのかな。

お父さん？

お母さん？

世界がぼやけて区別がつかないよ。

今までにはっきり見えてたのに。

どうしたんだろうつ。

お母さんが言つてたようにテレビは離れてみてたのにな。

お父さんが言つてたように暗い部屋で本を読んでないのにな。
おかしいな。

そうか。

もうすぐ僕は死なんだっけ。

なんで死ぬつてわかつたんだっけ？

そうだ。

お医者さんに言われたんだ。

どうして病院になんて来たんだっけ？

ああ。

立つてたらいきなり倒れたんだ。

それで病院にお父さんとお母さんが連れてってくれて。
それでレントゲンを撮つたんだ。

そしたら僕は病室のベッドに寝かされて。

お父さんとお母さんはお医者さんと部屋に残つて。
少ししたら泣きながら戻つてきて。

そして言つたんだ。

お医者さんが言つ前に。

確かにお母さんは言つたんだ。

「「めんね……」って。

お母さん。

僕はその言葉の意味、何か悪いことをして謝るとき使う言葉だつて教わつたんだ。

お母さんは、ボクに何か悪いことをした?

ボクにはなんでお母さんがそんなこと言つたのかわからない。
だから、いつもボクがお母さんに謝つたとき、お母さんが言つてくれる事を僕も言つよ。

ありがとうつて。

ああ、なんかまぶたが重たいな。
目を開けてるのってこんなに大変だつたんだ。
目の前が肌色だ。

お父さんとお母さんかな。

ボクにはもう1色にしか見えないけど。
ボクのことはどう見えてるのかな。

もしも輝いて見えていたんだつたら、そんなに嬉しいことはないんだけどな。

ああそうだ・・・。

最後に言つておく事があつたんだ。

おとうさん。

おかあさん。

彼は焦点のあつてない目で両親を見つめ、唇を震わした。彼の口からは空気の抜ける音しか私には聞こえなかつた。

だけど私はわかっている。

彼の声が両親にだけは聞こえるといふことが。彼の想いが両親にだけは届いたといふことが。

僕はいつもみたいに眼をつむつた。
明日が来るのを楽しみにしながら。
明日が来ないことを知りながら。
目の前が真っ黒だ。

END

(後書き)

もし私が後5分の命だと言われたら・・・
今書いている小説を全部このサイトに投稿してくれと言い残すでし
ょう
そして後悔するでしょう
死ぬでしょう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2713a/>

余命宣告

2011年2月3日11時01分発行